

インド学生熱く質問

崇城大訪問「施設が充実」

インドで工学を学ぶ大学生たちが15日、熊本市西区の崇城大を訪れ、学内を見学するなど学生約10人と交流した。インド南西部に位置するケララ州にあるラジャギリ工業技術大の20歳〜27歳の8人。

両大は国際交流協定を結んでおり、日本の科学技術や文化に興味を持ってもらい日本とインドの懸け橋になってもらおうと崇城大が初めて招いた。

一行は授業のほか、日常会話も英語だけと

いう英語教育棟などを見学。学生の利用数や講師陣の顔触れ、日常会話の内容などを熱心に質問していた。

機械工学を学んでいるニスチャイ・クラナさん(25)は「けさ、生まれて初めて雪を見て、新幹線の速度にも驚いた。大学は施設が充実しており、学生も親切」と興奮気味。生物生命学部2年の船越美沙さん(20)は「インドの人たちは陽気で話しやすい。日本の文化をたくさん伝えたい」と話した。

一行は22日まで滞在し、県内のほか東京で企業などを訪問する。

(園田琢磨)



インドの学生たちと交流する崇城大の学生(左)＝熊本市西区